日刊
動労千葉

84. 12. 7

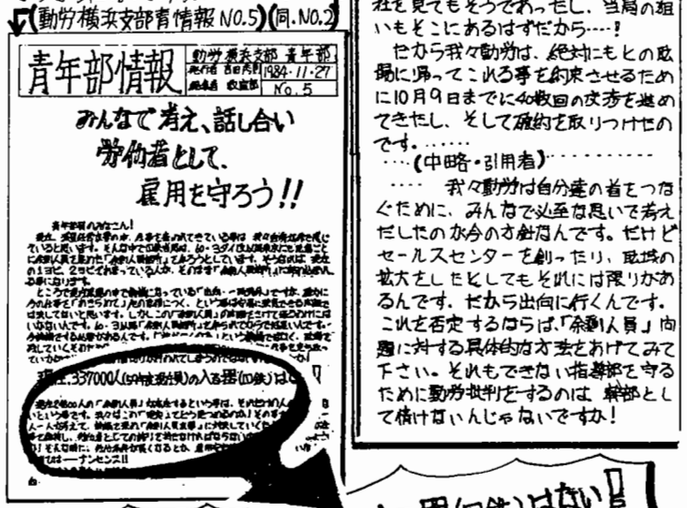
No. 1811

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二(22)七二〇七

『片道切符』と百も承知の上で 組合員に『出向・帰休』を強制

★"国鉄に全員の居場所は無い""だから出向に行け"と組合員に押しつける動労革マル。"出向・帰休は片道切符だ"という内外の批判・不満を認め、ぐらぐらになって必死のいいわけ。

（動労横浜支部青情報 NO.5）（同. NO.2）



〈「片道切符」だと思うのなら、帰って来れるように交渉をすればいいじゃないか〉

一般的に見れば出向・一時帰休に応じたら、二度と帰ってこれない（片道切符）という事があります。民間の会社を見てもそうであったし、当局の狙いもそこにあるはずだから…！

だから我々動労は、絶対にもとの職場に帰ってこれる事を約束させるために10月9日までに40数回の交渉を進めてきたし、そして確約を取りつけたのです。……

……（中略・引用者）……

……我々動労は自分達の者をつなぐために、みんなで必至な思いで考えだしたのが今の方針なんです。だけどセールスセンターを創ったり、職場の拡大をしたとしてもそれには限りがあるんです。だから出向に行くんです。これを否定するならば、「余剰人員」問題に対する具体的な方法をおけてみて下さい。それもできない指導部を守るために動労批判をするのは、指導部として情けないじゃないですか！

現在24万人の「余剰人員」が発生するという事は、それだけの人の仕事がなくなるという事です。我々はこの「現実」をどう見つめるのか！その事を青年部員一人一人が考えて、輸送を突破し「余剰人員攻撃」に対決していくために、全員が仕事を確保し、労働者としての誇りを持たなければならないのではないでしょうか！そんな時に、労働条件が悪くなるとか、雇用安定協約はどうとか言っていたのでは——ナンセンス!!

我々はこの先もハンドル、ハンマーを持ち、旗をふっていくために、今は「出向・一時帰休」の道をも歩まなければならないのではないのでしょうか！

紙の弾丸 『日刊』の批判に動揺し悲鳴あげる 「動労千葉地本」デッチあげ（下）

「日刊動労千葉」による動労「本部」革マルの裏切りを暴露、弾劾する闘いは、全国の国鉄労働者の怒りを倍加させ革マルを追いつめている。

これに悲鳴をあげた「動労千葉地本」は「〃何もせず〃に『反動労』キャンペーンに明けくれる〃中野一味〃」なるビラをまいた。前号にひきつづき、「ビラ」の反動性を明らかにする。

〃血のにじむ英知をしぼって〃 すべての闘いを裏切ってきた 動労「本部」革マル

第三に、「中野一味は国鉄＝労組攻撃にたいしてどうしてきたのか」の中で、「動労千葉はブルトレ以降、今日まで何も闘わず動労へのケチつけに終始してきた」と述べている。

「動労の血のにじむ英知をしぼった交渉」とはよくいったものだ。

ブルトレ添乗旅費の返済をはじめとし、乗車証制度の改悪、時間内入浴規制や現協制度改悪を軸とする「職場規律の確立」と称する既得権剝奪攻撃、「57・11」「59・2」合理化、内達ー動乗動、そして「三本柱」を率先して受け入れ、裏切ってきたのは他ならぬ動労「本部」革マルではないか。

動労千葉や国労は、動労「本部」革マル、鉄労の「片仕切り」という困難な状況の中で、労働組合の原則をつらぬき、最大限闘いぬいてきた。

動労千葉は、時間内入浴やワッペン着用等に対する「職場規律」攻撃をはねのけ、現協制度では無協定となろうが原則を曲げず、昇給協定改悪に対しては大きな歯止めをかちとった。さらに「59・2」では「貨物三基地については今後とも存続することで最大限努力する」等を確認し、「動乗動」妥結にあたっては、組合主張をおしこむ展望と運転保安要求をおしこんだ。

現在、首切り「三本柱」について原則を貫いて闘う一方、「60・3」のすさまじい提案に対し、内達対策委員会や各支部のダイヤ検討委員が、連日寝食を忘れ組合案の仕業を作成し、交渉を展開しているのだ。

問題は、動労「本部」革マルの裏切りに力をえた当局が、革マルとグルになって攻撃を加えてきていることである。

闘いの中でかちとった「メモ」を反古にし、蘇我機関支区の廃止（成田運転区の廃止は事前に察知し粉砕した）や、「6時間40分をクリアーすればよい。クリアーとは標準とする」との「確認」を無視し、8時間に近いすさまじい勤務を提案し、これに「60・3では当局が動労の提言を入れてこんなに便利になります」などといいきる動労「本部」革マルを断じて許すことはできない。

「三里塚を闘う労働運動」こそ、血を流して我がものとした勝利の路線

第四に、「なぜ中野一味は反動労キャンペーンにのみ血道をあげるのか」の中で、「動労千葉は国鉄攻撃にお手あげとなり、組合員を三里塚にひきまわしたうえで反動労キャンペーンに存在意義をみい出している」としている。

何度でもいおう。

中曽根の戦争準備のための軍事大国化、改憲の反動攻撃を阻止する道は、三里塚闘争の勝利にあり、三里塚を闘う労働運動こそが国鉄攻撃を打ち破る唯一の道である。この路線のもと、動労「本部」革マルとの組織争闘戦に勝利することができ、81・3ストを打ちぬき、当局との力関係の優位性をかちとってきたのだ。まさに、全組合員が血を流して我がものとした路線であり、動労千葉の魂である。

動労「本部」革マルがどんなに悲鳴をあげようが、労働者の敵であり、一掃しない限り闘いの勝利がない以上、今後も徹底して日本労働運動から一掃するまで容赦なく闘うことを明らかにする。

（おわり）